

参考資料11

分類名〔病害虫〕

「金のいぶき」のいもち病防除体系

宮城県古川農業試験場

1 取り上げた理由

平成27年度に本県の奨励品種に採用された「金のいぶき」は、低アミロース性を持つ巨大胚品種で耐冷性に優れ、玄米中の機能性成分であるビタミンE含有量が「ひとめぼれ」の2倍程、GABAが「ひとめぼれ」の3倍程多く、玄米での食味は「ひとめぼれ」より優れることから、多様な用途に向く良食味品種として期待されている。

今回、今後の安定生産に向けた栽培法を確立するためにいもち病防除体系を検討したところ必要な防除体系が明らかとなったため参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 箱施用剤のみ、もしくは箱施用剤＋水面施用剤による防除条件下では「金のいぶき」は「ひとめぼれ」より葉いもちの病斑数は多くなり、防除価も低くなる（図1，2）。
- 2) 箱施用剤のみ、もしくは箱施用剤＋水面施用剤による防除条件下では「金のいぶき」の発病穂率は「ひとめぼれ」を大きく上回り、防除価も低くなる（図3）。
- 3) 首いもち「ひとめぼれ」では見られないが「金のいぶき」では無処理、箱施用剤のみ、箱施用剤＋水面施用剤で見られた（表1）。
- 4) 「金のいぶき」は箱施用剤＋水面施用剤＋茎葉散布剤による防除で「ひとめぼれ」と同等の穂いもち防除価になる（図4）。

3 利活用の留意点

- 1) 試験は平成28年5月から10月にかけて古川農試内ほ場で行った。使用した箱施用剤はD r．オリゼフェルテラグレータム箱粒剤で移植当日（5月11日施用）、水面施用剤はコラトップ5（7月8日施用）、茎葉散布剤はブラシンプロアブル（「ひとめぼれ」は7月29日に散布、「金のいぶき」は8月4日に散布）。
- 2) 発病を促進させるため各区にいもち病罹病株を2カ所、6月22日に配置し、7月1日に防風ネットを設置した。「ひとめぼれ」は8月4日、「金のいぶき」は8月10日に出穂した。

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

水稻奨励品種決定調査（宮城の「金のいぶき」生産拡大事業：平成28年年度）

2) 参考データ

以下のとおり。

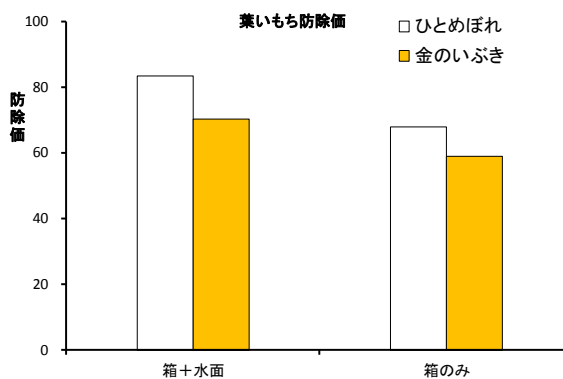
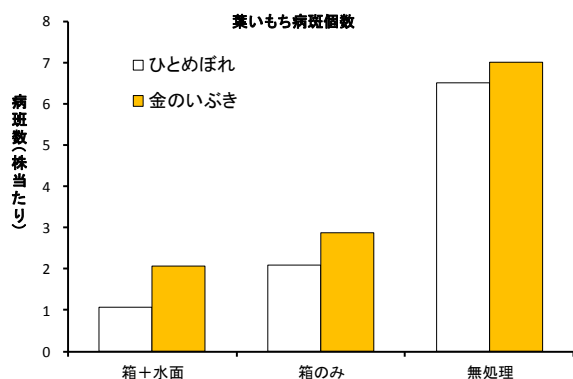


図1 処理区別葉いもち病斑数

図2 処理区別葉いもち防除値

※防除値：100－（試験区の病斑数/無処理の病斑数）×100

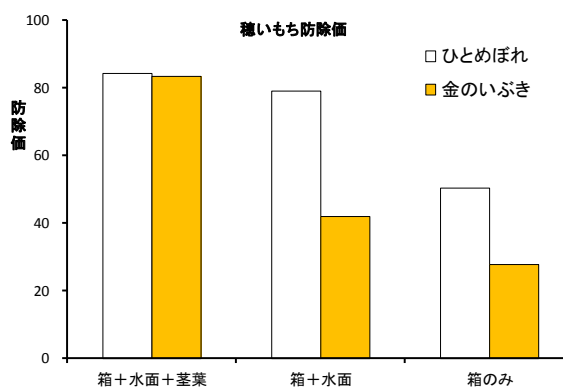
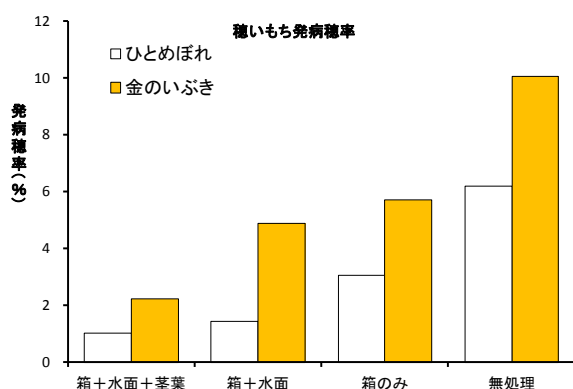


図3 処理区別穂いもち発病穂率

図4 処理区別穂いもち防除値

※防除値：100－（試験区の発病穂率/無処理の発病穂率）×100

表1 穂いもち程度別発病穂割合 (%) ※1区30本調査×3区の平均値

		箱+水面+茎葉	箱+水面	箱のみ	無処理
ひとめぼれ	首いもち	0.00	0.00	0.00	0.00
	枝稜いもち1/3以上	0.12	0.10	0.42	0.87
	枝稜いもち1/3未満	0.90	1.34	2.65	5.32
金のいぶき	首いもち	0.00	0.56	1.09	1.06
	枝稜いもち1/3以上	0.18	1.47	1.33	1.28
	枝稜いもち1/3未満	2.06	2.84	3.29	7.72

3) 発表論文等

a 関連する普及に移す技術

なし

b その他

なし

c 引用した文献など

なし

4) 共同研究機関

なし